

J - クレジット制度管理者 御中

## 実績確認概要書

平成30年9月7日

審査機関名 ロイドレジスター クオリティ アシュアランス リミテッド

### 1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	A 重油ボイラから木質バイオマスボイラへの更新プロジェクト
承認番号	KC0911
排出削減事業者名	大林産業株式会社
排出削減共同実施事業者名	株式会社 FT カーボン (その他関連事業者名：なし)
事業実施場所	大林産業株式会社 本社工場 (住所：〒747-0344 山口県山口市徳地八坂 700 番地)
事業の概要	A 重油ボイラ 3 基を木質バイオマスボイラ 1 基へ更新する。木質バイオマスを使用することによって、CO2 排出量を削減する。
排出削減量の計画	2010年度： 202tCO2 2011年度： 221tCO2 2012年度： 221tCO2 2013年度： 225tCO2 2014年度： 225tCO2 2015年度： 225tCO2 2016年度： 225tCO2 2017年度： 225tCO2 2018年度： 18tCO2 (事業実施期間合計 1,787tCO2)
クレジット認証期間	開始日 2010年5月1日 終了日 2018年4月30日
排出削減方法論	方法論番号004: 空調設備の更新

## 2. 本実績確認の対象期間

2015年10月1日～2018年4月30日（第6回目実績報告）

## 3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	391tCO2 (2015年10月1日～2018年4月30日)
-------	------------------------------------

## 4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って実施した結果生じていること	排出削減量が、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じている事を、以下の通り確認した。 1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 初回実績確認ではないので該当しない。  2) 対象期間中の設備稼働の確認 導入したボイラー設備は実績確認の期間中継続的に稼働していることを、本実績報告対象期間における木材乾燥量実績記録と事業者ヒアリングにより確認した。
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	排出削減量は、承認排出削減事業計画に従って実施され、算定されていることを確認した。 1) モニタリング方法の確認 関係者へのヒアリング、木材乾燥量実績記録の確認等により、承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画通り、バイオマス燃料使用に関するモニタリングが実施されていることを確認した。また、バックアップボイラでのA重油使用量については、ボイラの更新によりバックアップボイラーの加重平均ボイラー効率が更新前よりも向上したため、事業実施後A重油購入量を更新前後のバックアップボイラのボイラー効率を使って換算したものをA重油使用量とすることで、ボイラー効率向上による影響を排除する方法にモニタリング方法が変更されていることを確認した。

	<p>2) 活動量の正確性 関係者への質問、木材乾燥量実績記録、A重油購買記録等の確認により、承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画通り、正確に集計されていることを確認した。</p> <p>3) 単位発熱量、排出係数等の確認 使用されている単位発熱量、排出係数等が、J-クレジット制度・モニタリング・算定規程(排出削減プロジェクト用)Ver3.2及び承認排出削減事業計画通りであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 事業実施後排出量、ベースライン排出量、リーケージ排出量、排出削減量の算定結果を根拠資料と突合、方法論の定めた計算式との照合、計算過程の確認、再計算等を実施した結果、排出削減量の算定結果が正確であることを確認した。</p>
算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないこと	<p>今回の実績確認対象期間は 2015年10月1日から2018年4月30日までとなっているが、J-クレジット制度への移行手続きにより、終了日は 2018年4月30日となっているため、クレジット認証期間の終了日を超えないことを確認した。□</p>

## 5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価

A重油バックアップボイラーのうちのサムソン製1台がIHI製のK-2000Lに置き換えられていた(2014.4.1より稼動)。これは、木材乾燥量増加によることが理由であり、従来よりも容量の大きなボイラーへの更新により、A重油バックアップボイラーの加重平均ボイラー効率が更新前よりも向上したため、事業実施後排出量にボイラー更新の効果が追加されることとなった。そのため、今回の実績報告では、事業実施後A重油使用量を更新前後のバックアップボイラーのボイラー効率を使って換算したものをA重油使用量とすることで、ボイラー効率向上による影響を排除した。最終結果は、上記補正をした上で事業実施後排出量が算定されていることを確認した。

## 6. 特記事項

排出削減量に相当する再生可能エネルギー利用量について、熱量換算で7543GJであることを確認した。

以上